

# Canonflex



このたびは、キヤノンフレックス RP をお選びくださいましてまことにありがとうございました。

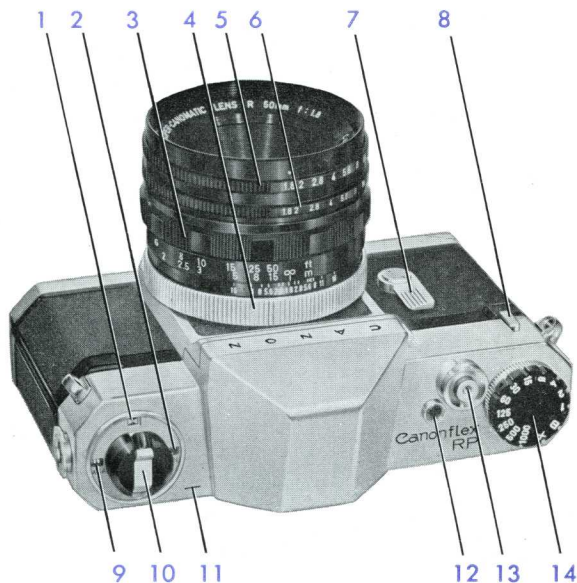
キヤノンは、世界のカメラとしてひろく親しまれ、我が国写真界発展の道をひらくと同時に、各種キヤノン製品を通して、皆様の「楽しい生活」の実現に、たゆまぬ努力を重ねてまいりました。

つねに新しい時代のセンスにマッチする豊かな製品企画にもとづいて、すぐれたキヤノンをお届けするために、キヤノンでは多年の経験に加えて独自の理論と生産技術を総合し、最も近代的かつきわめて合理的な生産方式で材料から完成品にいたるまでの一貫作業を行っております。したがって品質、性能はもちろんのことデザイン、価格のすべてにわたって、必ずご愛用の皆様のご満足を頂けるものと信じております。

ご家庭に、ご研究に、ご旅行ハイキングに、キヤノン製品を十二分にご活用ください。

### 組立工場の一部





- |   |                |    |                         |
|---|----------------|----|-------------------------|
| 1 | フィルムタイプ表示窓 15頁 | 8  | アクセサリークリップ19頁           |
| 2 | DINフィルム感度表示 15 | 9  | ASAフィルム感度表示 15          |
| 3 | ピント調節リング…… 5   | 10 | 巻き戻しクランク12,14,16        |
| 4 | バヨネットリング…… 22  | 11 | フィルム位置マーク… 7            |
| 5 | プリセット絞り… 6, 20 | 12 | 撮影枚数表示窓……2, 14          |
| 6 | 手動絞り…………… 6    | 13 | シャッター ボタン…… 3           |
| 7 | セルフタイマー………… 29 | 14 | シャッター<br>ダイヤル… 4, 8, 20 |

最後の頁にはカメラ背部からの説明があります  
見開きのままで本文をごらんください

## キヤノンフレックスRPの主要性能

**型式：** 35ミリフィルム用一眼レフレックス

**ファインダー** ペンタゴナル ダハ プリズム使用のアイレベル ファインダー

**ピントグラス：** フレネルレンズ使用，特殊処理の高解像力性ピントグラス

**ミラー：** クイックリターン式

**プリセット絞り機構：** スーパーキヤノマチック完全プリセット自動絞り装置

**シャッター：** 倍数系列 1～1/1000秒，等間隔目盛および B, X の一軸ダイヤル・フォーカル プレーン シャッター

**露出計連動：** 高感度キヤノンメーター R によるシャッターおよび絞りの完全連動調整

**シンクロフラッシュ：** フラッシュユニット直結ソケットおよび自動タイムラグ調節

**レンズマウント：** キヤノン式バヨネットマウント

**交換レンズ：** 自動プリセット絞り式各種交換レンズ

**セルフタイマー：** シャッターボタンでスタートする内蔵セルフタイマー

**フィルムとシャッターの巻き上げ機構：** カメラ底部に設けた 130° 回転トリガータイプのレバー

**フィルムの巻き戻し：** 折り畳みクランク式

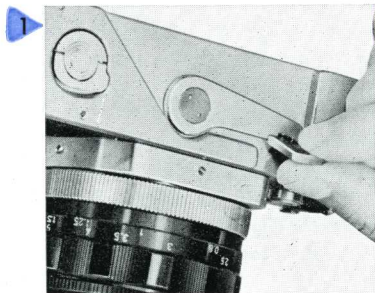
**フィルム装填：** 裏蓋開閉式，普通のバトロローネのほか専用マガジン使用可能，裏蓋ロックとマガジン開閉との一作動機構，撮影枚数計の自動復帰

**安全装置：** シャッターボタン，フィルム巻き上げ，シンクロフラッシュ，その他各所に設けたフルブーフ装置

## 目 次

■フィルムとシャッターの巻き上げ	2
■シャッターの調節	4
■ピントの調節	5
■レンズの操作	6
■キャノンフレックス RP の構え方	11
■フィルムの装填	12
■フィルムの巻き戻し	16
■キャノンメーター R の連動	18
■露出の決定	20
■レンズの交換	22
■交換レンズ	25
■フラッシュ同調	26
■二重露出	28
■セルフタイマー	29
■キャノン専用マガジンと フィルムの詰め方	30
■カメラの保存手入れ	32

## フィルムとシャッターの巻き上げ



トリガーレバーの先端にある指掛けを引き起し、前方からこれに指を掛けて矢印の方向に止まるまで動かすと、フィルムが1コマ分送られ、同時にシャッターが巻き上げられます。

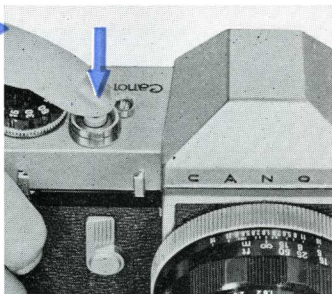
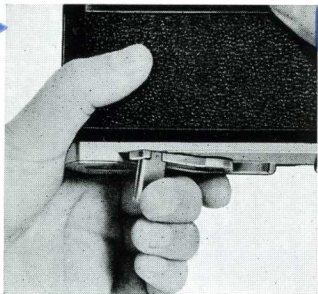
この操作によってミラーの作動機構およびレンズのプリセット絞り機構が同時にチャージされます。

### 撮影枚数表示

フィルムが1コマ巻き上げられるごとに、撮影枚数表示窓の目盛が1つずつ進んで、フィルムの撮影枚数を示します。目盛は裏蓋を開くと自動的にスタートマークまで戻ります。







**シャッターボタン** を押すと

ミラーがはね上り、同時にプリセットの位置までレンズが絞られ、ついでシャッターが作動します。

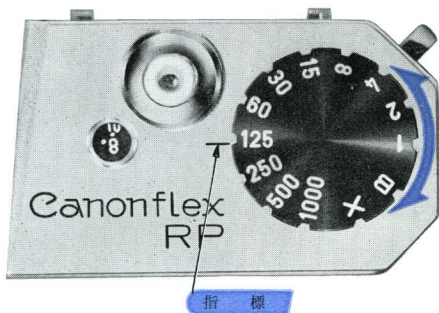
トリガーレバーはシャッターの作動後直ちに巻き上げできる状態になります。

シャッターボタンは巻き上げの途中では押しても動きません。したがってシャッターボタンの動かないときは念のためトリガーレバーを巻き上げて見てください。

トリガーレバーは小刻みの繰り返し操作でも巻き上げられます。その際はレバーの動かなくなったときに巻き上げ完了です。

フィルム装填後第1回目の巻き上げのときだけは1回のレバー操作で巻き上げが完了しないこともありますから、更に繰返して止まるまで巻き上げてください。

## シャッターの調節



シャッターは 1, 1/2, 1/4, 1/8, 1/15, 1/30, 1/60, 1/125, 1/250, 1/500, 1/1000 秒および X, B に調節することができます。

シャッタースピードの調節はシャッターダイヤルをそのまま右または左に回して必要な目盛を指標に合わせます。

ダイヤルの数字は何分の 1 秒という場合の分母を示します。目盛の間は必ずしも完全な中間秒時を示しません。

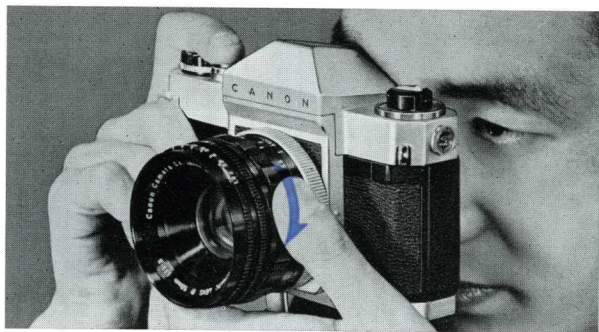
■ X目盛はスピードライト（ストロボフラッシュ）の同調に使用するもので、シャッタースピードとしては約 1/60 秒ですが、実際にはスピードライトの閃光時間だけの極く短い露出に相当します。

■ B目盛はバルブ露出で、シャッターボタンを押しているあいだは、シャッターが開いていますから、1 秒以上の露出に用います。

■ タイム露出の必要なときは、ダイヤルを B 目盛にセットし、ロック付きのケーブルレリーズを使用して、露出中ケーブルレリーズをロックしておきます。

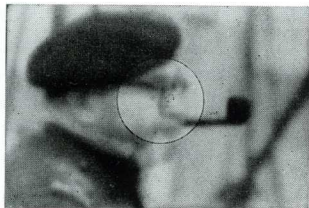


## ピントの調節

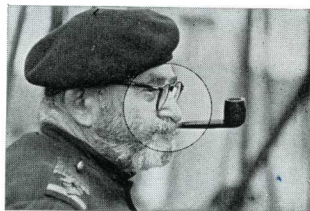


レンズのキャップをはずし、ファインダーの接眼レンズを覗きながら、レンズのピント調節リングを回して被写体にピントを合わせます。このとき、ピントガラス面にはフィルムに写しこまれる画面そのままの被写界全体が眺められます。レンズを交換しても撮影距離を変えてもパラックス（視差）を生ずることがありません。

ピントがはずれているとき

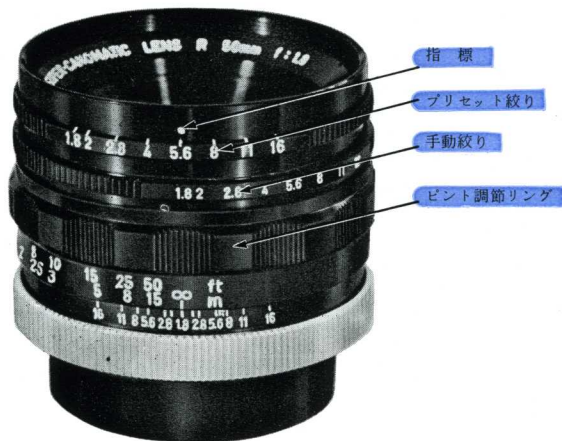


ピントが合っているとき



- ファインダーには、標準視度の接眼レンズが付いていますが、これで見にくい方には別に視度補正用の交換接眼レンズが用意されています。
- スプリットイメージをもつピントガラスとの交換が可能です。この場合の焦点調節は中央円形内の上下像によって行います。交換は各サービスステーションにてお取扱いたしております。

## レンズの操作



スーパーキヤノマチックレンズは、自動プリセット絞りをそなえており、普段はレンズの口径が全開していますが、撮影中シャッターの作動している間だけは、絞りが所望の値まで自動的に絞られ、シャッターの作動が終ると、また自動的に全開するようになっています。

■ **プリセット絞り** 自動的に絞り込まれる絞りの大きさを調節する機構で、このリングを回して目盛を指標に合わせておくと、シャッターが切れる瞬間だけその絞り値まで絞り込まれます。

■ **スーパーキヤノマチック機構** による絞りの開閉は、高速シャッターの場合は眼に止まりませんが、Bまたは低速シャッターの場合はこれを見ることができます。

■ **手動絞り** を回すとプリセット絞りと無関係に絞りの開閉をすることができます。これによって絞られた状態のピント面をしらべることができます。プリセット絞りを使用するときは、手動絞りは必ず開放にしておいてください。

絞りは、その数値が大きくなるに従ってレンズが暗くなり、目盛の一段ごとに、明るさが半減するようになっていきます。したがって絞りを1目盛小さくしたときは露出時間を倍にし、2目盛小さくしたときは露出時間を4倍にしなければなりません。絞りは目盛の中間も用いることができます。レンズによっては、最大口径の絞りと次の絞りとの間にだけ、明るさ半減の関係がないものもあります。

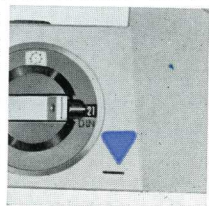
キャノンメーターを使用すると、シャッタースピードと絞り目盛の決定がきわめて簡単にできます。

絞り値	1.2	1.4	1.8	2.0	2.8	(3.5)	4.0	5.6	8.0	11	16	22
露出比率	1/3	1/2	1/1.25	1	2	(3)	4	8	16	32	64	128

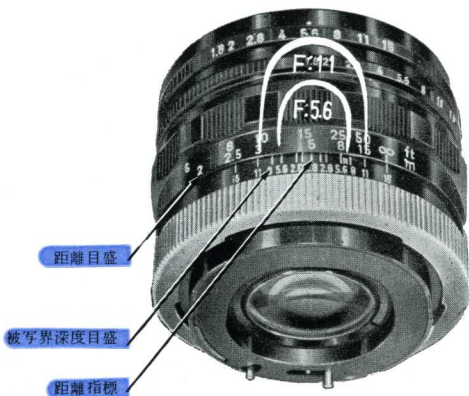


**距離目盛** はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです。ピントガラス面でピントを合わせる

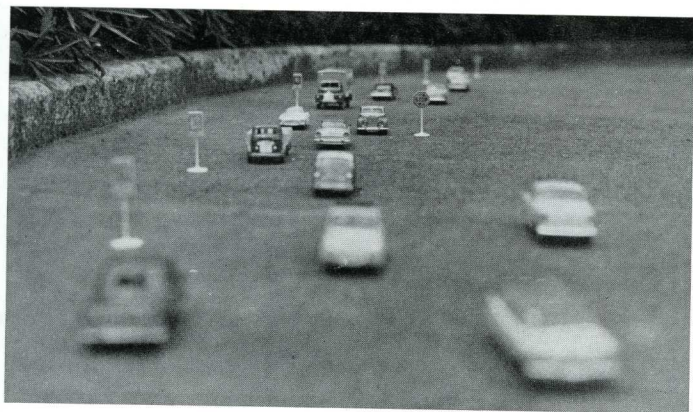
普通の撮影では必要ありませんが特別の場合、たとえば被写体までの距離を実測してピントを合わせるときとか、被写界深度を的確に知りたい場合、あるいは赤外撮影の場合などに必要になります。そのさいの実測距離はフィルム面に一致した位置にあるフィルム位置マークから測ります。距離目盛は、1桁数字の距離ではその数字の中心、2桁数字の距離では2つの数字の中間、3桁数字の距離では中央数字の中心が、それぞれ正しい目盛位置になります。



**被写界深度** ある被写体にピントを合わせたとき、その前後でなお鮮明に写る範囲を示すもので、ピントガラス面の像によっても一応その状態はわかりますが、一層くわしく知るには被写界深度目盛によります。これは距離目盛に関連していて、たとえば50mmレンズで5mの距離にある被写体にピントを合わせたとき、F5.6の絞りを使うとすれば、距離指標の両側で一对の5.6の目盛の示す距離、すなわち約3.7mと約7.8mとを読みとります。この間にあるものは鮮明に写るわけです。同様にF11に絞れば2.9mから17mまで鮮明に写ることがわかります。被写界深度は、レンズを絞るほど、また撮影距離が遠くなるほど深くなり、逆の場合ほど浅くなるものです。



■シャッターダイヤルは目盛の中間が使いませんが絞りは目盛の中間も連続的に利用できますから、露出を厳格に考える場合は、シャッター速度を先に決め、これに応じて絞りを加減することが最も合理的です。



F 5.6



ピント合わせ 5 m, 深度 約 3.7m—7.8m



F 11



ピント合わせ 5 m, 深度 約 2.9m—17m





**赤外指標（赤外マーク）** 赤外撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれるので修正を要します。それには普通にピントを合わせた後まず距離指標で距離目盛を読み、その読み目盛を赤外指標まで移動させます。たとえば、ピントを合わせた結果が距離目盛で 15 だったとすれば、この 15 の目盛を R の位置までずらせ、 $\infty$  なら  $\infty$  の目盛を R に合わせます。目測や巻尺で距離を合わせる場合は、距離指標の代りに赤外指標に距離目盛を合わせます。

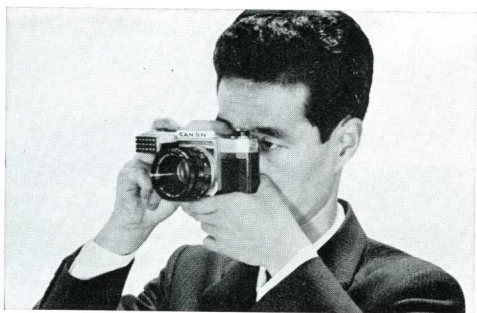


赤外指標 (R)

赤外指標は  $8000\text{\AA}$  程度の波長に最大感度を持つフィルムと赤外フィルター（たとえばコダック IR 135 フィルムとラッテン 87 フィルター、または IR 77~78 (JIS) フィルター）を用いる場合を標準にして目盛っております。赤末部を使用する場合、たとえばプラス X、あるいは一般のパンクロフィルムにラッテン 25 程度の赤色フィルターを添用する際などには、修正移動量を  $1/3$  ぐらいとするのが適当です。



## キヤノンフレックスRPの構え方



撮影の際、カメラを確実に構えることは、鮮鋭なピントの写真をとるために最も大切なことです。カメラは縦位置または横位置の状況に従って写真のように持ち、ピントガラスを覗いて構図の決定をすると同時にピント合わせをし、それから静かにシャッターを切ります。その際特に次のことが大切です。

1. 両手は努めて深くカメラを握り込むこと
2. カメラを頬あるいは額に当てて固定すること
3. 横位置のときは両ひじ、縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリ体に付けること

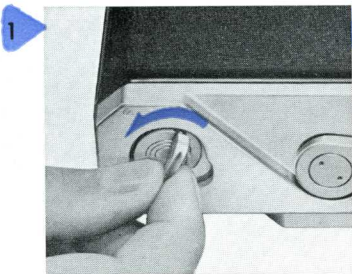
■ シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。

■ 撮影には三脚とレリーズを使う方が確実です。特に 1/30 秒以下のスローシャッターを切るときはこの点にご注意ください。



## フィルムの装填

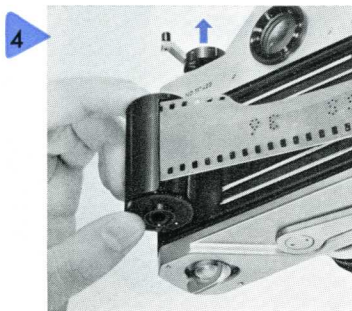
フィルムは市販の35mm日中装填用パトローネ（カートリッジ入りフィルム）でも、キヤノン専用マガジンVに入れたものでも同様に用いられます。



1 底部の開閉つまみを引き起して左回りに半回転します。



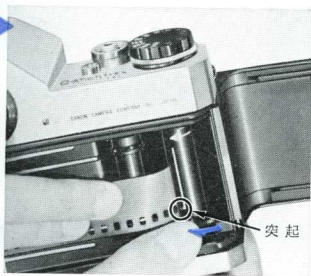
2 裏蓋が少し浮き上がりますから、これに指をかけてあげます。



4 巻き戻しクランクを引き起し、巻き戻しノブと共に十分に引き上げた後、パトローネまたはマガジンをカメラ内に収め、再び巻き戻しクランクの軸を元のように押し込みます。

マガジンを入れる場合はカメラ底部の開閉つまみが開放位置でないとマガジンが入りません。フィルムは乳剤面が向うむきになります。

3



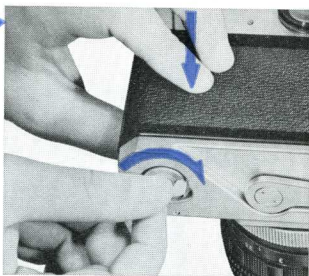
フィルム端を巻き取りスプールの溝に十分差し込み、スプールのつばを矢印の方向に少し回しながら溝ぎわの突起をフィルムの孔にかけます。

5

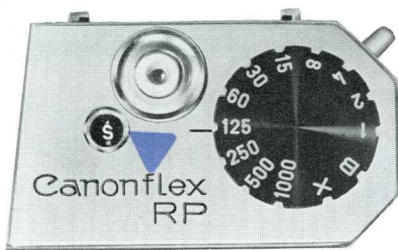


その際フィルムの孔をスプロケットの歯に完全にかかけ、またフィルムにたるみがあれば、巻き戻しクランクを右回しに回してたるみを取っておきます。

6



裏蓋を閉じて、これを押さえながら開閉つまみを右回しに回します。巻き戻しクランクは折り畳んでおきます。

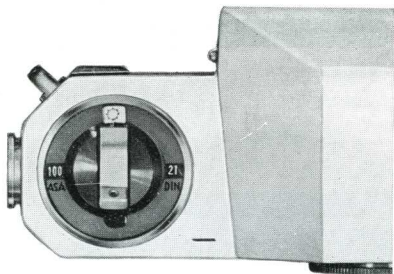
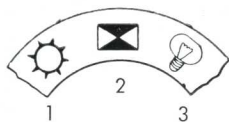


レンズキャップをかぶせたまま、巻き上げの操作をして2回空写しをします。撮影枚数表示はフィルム装填のはじめS（スタート）の位置に復帰していますが、2回の空写しによって0の表示が出ます。次に巻き上げをすると一枚目の撮影準備ができます。

#### フィルム装填良否の確かめ方

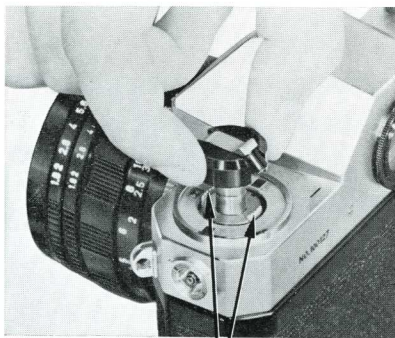
巻き取りをするごとに、巻き戻しノブ全体が回ります。このことでフィルムが正しく巻き取られているかがわかりますから、巻き上げの際は、いづれもこれを見るようにお勧めします。もし回らなければ、フィルムの端がスプールから抜け出しているか、フィルムの孔がスプロケットからはずれていることになります。その場合は、16頁のフィルム巻き戻しの要領で、フィルムを一旦取り出して装填し直さなければなりません。

カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申し上げることができます。カメラやレンズの番号は、いつでもわかるようなお心づかいをお勧めいたします。



### フィルムタイプ表示とフィルム感度表示

装填したフィルムの種類と感度をここに表示しておきます。表示をかえるには巻き戻しノブを引き上げ、そのかけにあるギザギザ付きの2箇のレバーに指をかけて回します。一方のレバーでフィルムタイプの表示が変わり、他方のレバーで感度表示が変わります。①はデーライト用カラーフィルム、②は白黒フィルム、③はタングステン光用カラーフィルムを示します。

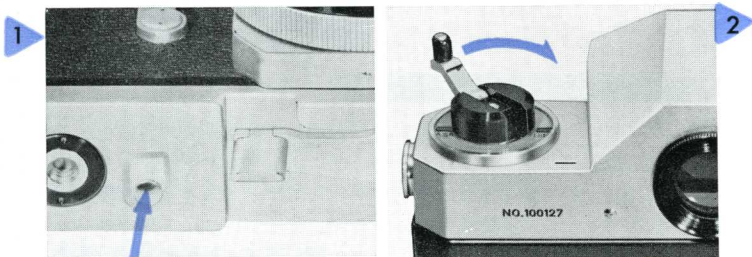


表示変更レバー

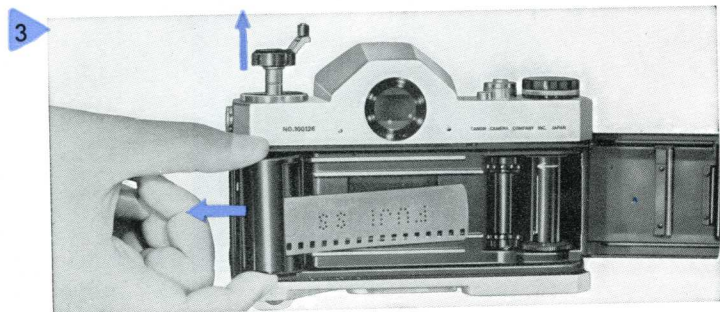


## フィルムの巻き戻し

フィルムが終りになると巻き上げに抵抗を感じますから、巻き上げを中止し、次の順序によってフィルムを元のマガジンまたはパトローネに巻き戻します。



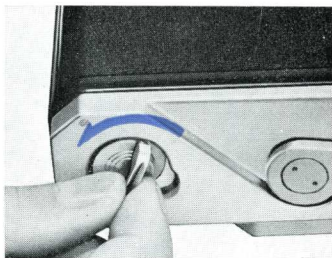
巻き戻しクランクを起し、カメラ底部の巻き戻しボタンを押した後、巻き戻しクランクを矢印の方向に回してフィルムを元のマガジンに巻き戻します。



巻き戻しノブを十分に引き上げた後、マガジンまたはパトローネを取り出します。



巻いているうちに急に抵抗が軽くなったときがフィルムの端ですから巻き戻しを止めます。



裏蓋開閉つまみを左回しに回して裏蓋を開きます。

- 巻き戻しボタンは一度押したなら指を離してもさしつかえありません。トリガーレバーを巻き上げますと、このボタンは自動的に戻ります。
- 巻き戻しはシャッターの巻き上げ後でも巻き上げをしない状態でもさしつかえありません。
- 巻き戻しの際は必ずレンズキャップをしてください。
- フィルムが終りになっているのに、無理にその巻き上げをすると、巻き戻しができなくなって、暗室でフィルムを取り出さなければならなくなりますから、ご注意ください。

## キヤノンメーターの連動

シャッター ダイアル  
カップリング ギヤ

零点調節マーク

シャッター目盛

絞り目盛

クランプレバー

ガイドライン

シャッター指標

メーター指針

感度切り換えレバー

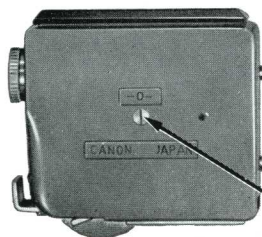
フィルム感度目盛

受光窓



固定爪

スライド爪



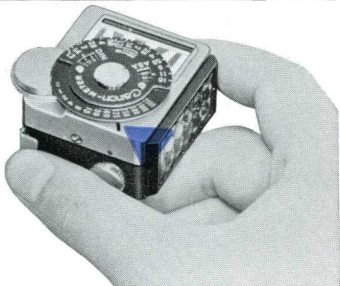
零点調節ねじ

キャノンフレックスにキャノンメーターRを取り付けると、これに連動してシャッターおよび絞りを適正露出にセットすることができます。



### 取り付け取りはずし

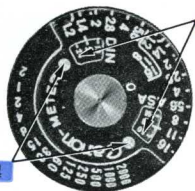
1. 取り付けには、まずカメラのシャッターダイヤルがどのスピードにセットされているかを読み、キャノンメーターRのシャッター目盛がそれと同じスピードになるように指標にセットします。



2. 次に固定爪をアクセサリクリップのレンズ側の足にかけ合わせ、さらにクランプレバーを押しながらメーターをカメラに押し付け、レバーから指を離します。こうするとスライド爪が戻ってアクセサリクリップの足にはまり、メーターがカメラに固定されます。それと同時にカップリングギヤーが、シャッターダイヤルにかみ合って連動するようになります。その際念のため両ダイヤルのスピード指示が一致しているか、シャッターダイヤルがスムーズに回せるかどうかを確かめておきます。

■メーターを取りはずすときはクランプレバーを押しただけで前方に引きはなせます。

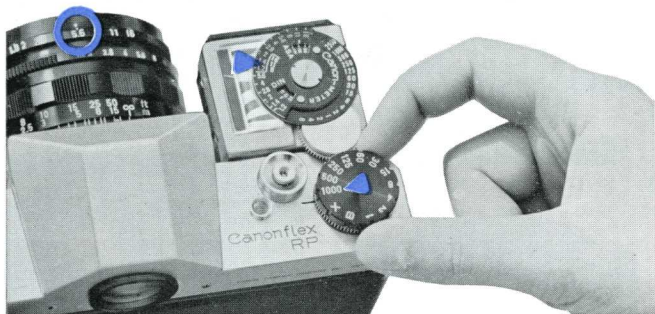
# 露出の決定



フィルム感度目盛

突起

1. フィルム感度目盛を使用フィルムの感度に合わせます。それにはシャッターダイヤルを回らないように押さえ、メーター目盛盤上の2箇の突起に指をかけて回します。



2. カメラをメーターごと被写体に向け、シャッターダイヤルを回してメーターの針にレンズの絞りと同じ目盛を合わせます。  
絞り目盛の白目盛と黄橙目盛については、後の感度切り換えの項をご参照ください。  
このようにしてシャッターダイヤルは自動的に正しい露出にセットされます。

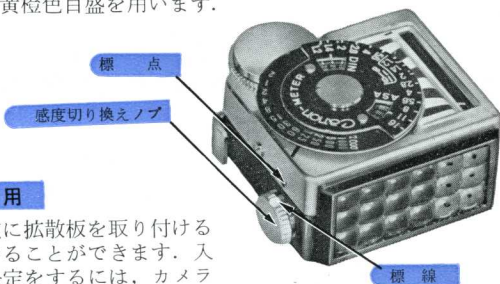
この方法の代りに次のようにすることもできます。

1. シャッタースピードを先に決めてカメラのシャッターダイヤルをセットします。
2. メーターを被写体に向けてメーター指針が指示する絞り目盛を読み取り、レンズの絞りをこれと同じにセットします。

■なお第一の方法で、シャッターダイヤルが目盛のあいだを示した場合、これに一番近いクリックストップの位置にセットし、その際メーター指針が指示する絞り目盛を読んでレンズの絞りをこれに合わせるようにすると最も正確になります。

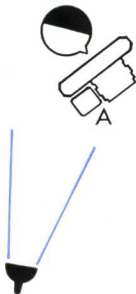
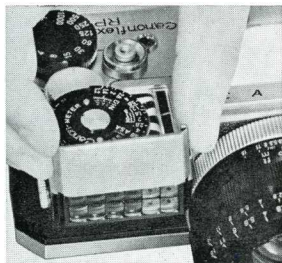
### メーター感度の切り換え

被写体が明るくてメーターの指針が振り切れるとき、または被写体が暗くて指針が動かないときは、感度切り換えノブを回して感度の切り換えをします。ノブに付いている白色標線が上方にあるときは、低感度用（明るい被写体用）で、メーターダイヤルの絞り目盛は白色目盛を用い、ノブの黄橙色標線が上方にあるときは高感度用（暗い被写体用）で、ダイヤルの絞り目盛は黄橙色目盛を用います。



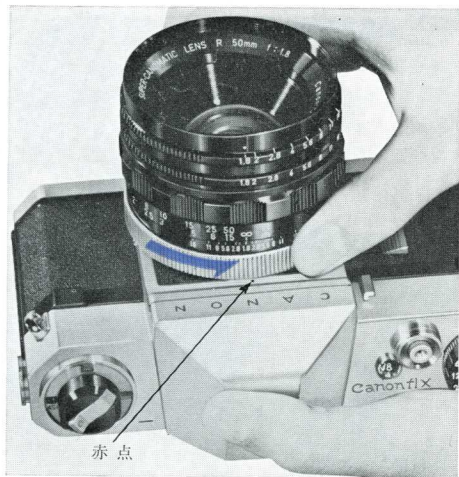
### 拡散板の使用

メーターの受光窓に拡散板を取り付けると入射光式に用いることができます。入射光式で露出の決定をするには、カメラを被写体に向けずに被写体位置から逆方向に向けて同様に指針をしらべます。拡散板を取り付けるには、その金具を受光窓側部の差し込み溝に上方からはめて押し下げます。

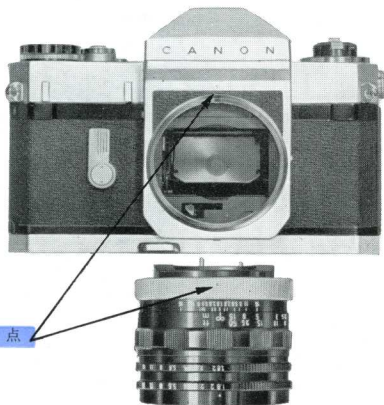


- A 拡散板をつけた入射光式  
B 拡散板をつけない反射光式

## レンズの交換



カメラからレンズをは  
ずすには、レンズのパ  
ヨネットリングを左回  
しに回した後、レンズ  
を前方に引き出します。



レンズを取り付けるに  
はカメラのマウント部  
の赤点にレンズの赤点  
を合わせてカメラには  
め込み、パヨネットリ  
ングを右回して締め  
付けます。



レンズの後端にはプリセット絞りのチャージレバーとその作動レバーとがあります。チャージレバーを矢印方向に動かしておいて、作動レバーを動かすと絞りが開閉するようになっています。レンズの取り付けをする際は、このチャージレバーをチャージしてから取り付けてください。なお、シャッターを巻き上げてあるカメラに、プリセット絞りのチャージしてないレンズを取り付けてシャッターを切りますと、最初の一回だけは自動プリセット機構が作用しません。もちろん、その次からは自動的にプリセットが行われます。



■ レンズを取りはずした際はミラーに指先を触れないようにご注意ください。また長くレンズをはずしておくときは、カメラとレンズのマウントにそれぞれキャップや蓋をかぶせておきます。

レンズの泡は明るさを、何百分の一か何千分の一か減らすことにはなりますが、この程度では撮影上全然問題になりませんし、また像の鮮鋭度にも何等影響ありません。高級レンズに使われる特殊ガラスは気泡の残存を免かれませので、高級レンズの製造上やむをえないものとしてご了承願います。



## 交換レンズ

キヤノンフレックスにはスーパーキヤノマチックレンズ、R 50mm F1.8 標準レンズをはじめ広角から望遠まで豊富に用意されておりますから、これらのレンズを使い分けることによって、あらゆる撮影が可能です。

### ■スーパーキヤノマチックレンズ

絞りがつねに開放で、撮影の瞬間だけ絞られる完全自動プリセット絞りのレンズ

広角 R 35mm F2.5 ¥ 29,900, 標準 R 50mm F1.8

望遠 R 100mm F2 ¥ 35,000, 望遠 R 135mm F2.5 ¥ 35,000

### ■キヤノマチックレンズ

プリセット絞りをチャージリングによってセットする形式の自動絞りレンズです望遠 R 200mm F3.5 ¥ 38,000

### ■キヤノンレンズ

絞りの開閉は手で行われます。

■手動プリセット、絞り一望遠 R 100mm F 3.5 ¥ 17,000

R 135mm F3.5. ¥ 23,000

### ■手動絞り

長焦点 R 85mm F1.9 ¥ 28,000

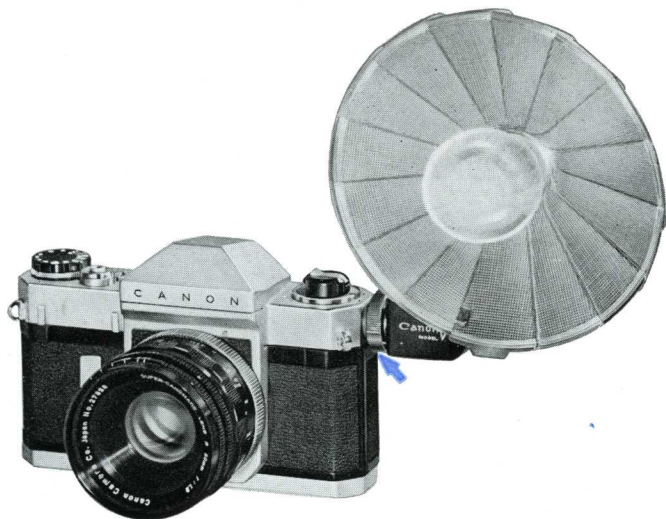
その他300mm以上の極長焦点レンズがあります。

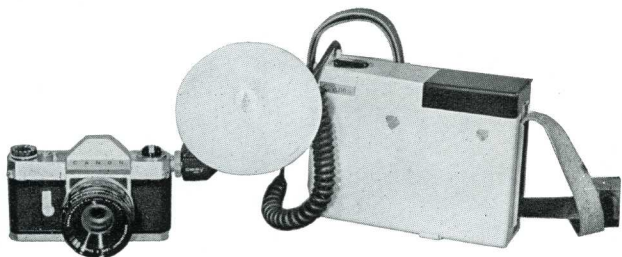


## フラッシュ同調

フラッシュユニット直結ソケットにキャノンフラッシュユニットVを接続しますと、次頁の表の各シャッター速度でフラッシュ同調撮影ができます。キャノンスピードライトV（ストロボフラッシュ）も同様に使用できます。

■発光のタイムラグはシャッターダイヤルのセットの際自動的に調節されます。





同調範囲		シャッター速度												
		1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1	B	X
フラッシュ シユバルブ	FP 級	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	M 級	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	F 級	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	スピード ライト	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●印の部分は使用できません。

■ Xのシャッターとしての露出時間は約 1/60 秒です。

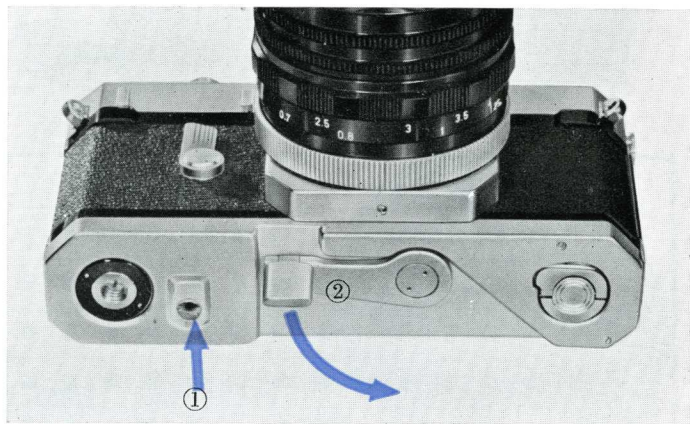
■ 超小型フラッシュバルブにはなるべく 1/15 秒よりおそいシャッターを、またM級バルブにもなるべく1/125秒よりおそいシャッターを切ってください。

■ スピードライトはX目盛でお使いください。



## 二重露出

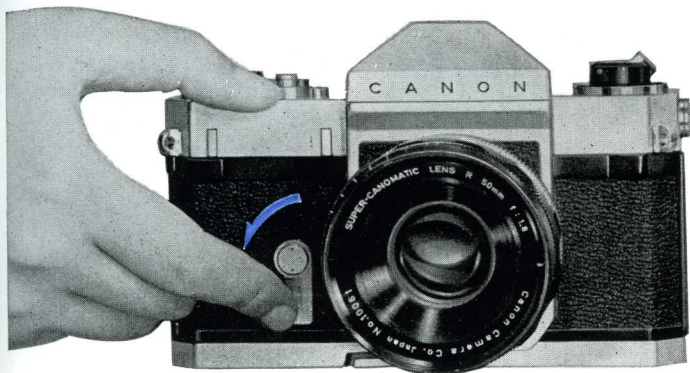
キヤノンは通例の取り扱いでは二重露出が防止されていますが、必要のとき、巻き戻しボタンを一旦押してからトリガーレバーを巻き上げ、次にシャッターボタンを押すと同じフィルム面に二重露出ができます。この操作を繰り返すと同一フィルム面で何回でも露出することができます。



極寒地では、カメラは撮影時以外直接外気に触れさせないように保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずにすみます。撮影に取り出す場合も徐々に外気に触れさせさせないと水分の凝結でレンズ面が曇り、撮影のできないことがあります。



## セルフタイマー



シャッターを普通に巻き上げ、セルフタイマーのレバーを矢印の方向に巻き上げた後、シャッターボタンを押すと、まずセルフタイマーがはたらき、約10秒おくれてシャッターが作用します。

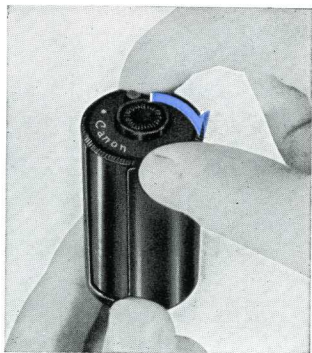
レバーは巻き上げの位置によっておくれる時間の調節ができますが、約3分の2以上巻き上げないとシャッターが作用しません。

シャッターの巻き上げとセルフタイマーの巻き上げとはいずれが先でもさしつかえありません。

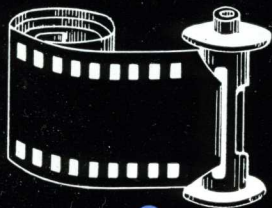
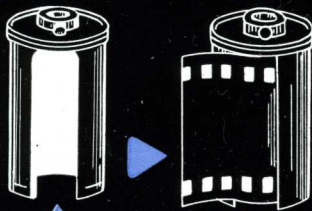


# キヤノン専用マガジンとフィルムの詰め方

突起  
止めばね



1



2



3



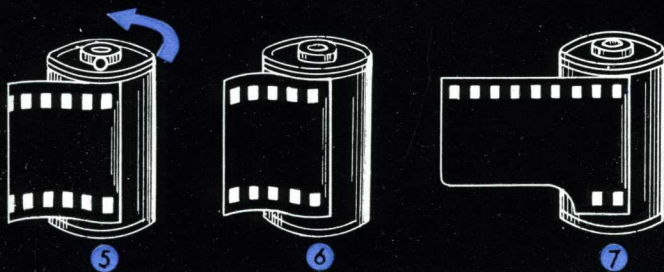
4

- ① 図のようにマガジンを持って突起を指で矢印の方向に押しとロックがはずれて内筒が少し回ります。内筒と外筒との窓口が合ったとき内筒を引き出します。
- ② フィルムの乳剤面（巻きぐせの内側）を向うむきにして、先端をスプールの軸溝に差し込みます。溝は幅の広い方が入口です。フィルムは軸内の戻り止めの作用で戻らなくなるはずですから、少し動かして確かめてください。
- ③ 乳剤面を内側にしてフィルムを巻き込み、これを内筒に収めます。乳剤面に指先を触れてはなりません。またゆるく巻いて、後で強く巻きしめるとフィルムに傷がつきます。
- ④ 窓口を合わせて内筒を外筒にはめ込みます。
- ⑤ 矢印の方向に内筒を回します。
- ⑥ パチンと音がして安全装置がかかります。
- ⑦ 長巻きフィルムの場合はフィルムの端を図のように切り取ります。

■ フィルムの取り扱いは安全灯下か暗黒下で行わねばなりません。

■ フィルムを入れたマガジンはカメラに装填するとき以外は必ずマガジンケースに収めておいてください。

■ スプールやマガジンが現像液や定着液などで汚されていると、フィルムにシミが生じたり、マガジンを錆させたりしますから、綺麗に拭いて使用することが大切です。



## カメラの保存手入れ

**カメラの保存：** カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまい込んで放置しておいてもシミや錆を生ずることがあります。むしろしばしば使用して外気に触れさせる方が無難です。長らく使用しないときはシリカゲルのような乾燥剤を入れてしまうことをおすすめします。

保存の場合は速写ケースをはずしてください。

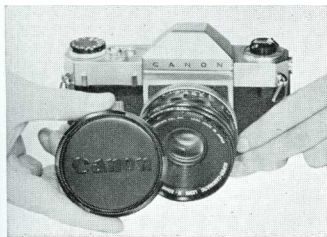
**カメラの手入れ：** 野外で使ったカメラは塵埃が付き易く、また雨の日や海辺で使ったあとは気付かないでも、水滴や塩分を受けてシミや錆を生じ、あるいはレンズのヤケや腐触の原因になります。そのような際は柔かい刷毛で埃を払い、乾いた柔い布で丁寧に拭きます。

レンズにはなるべく手を触れない方が無難で、ゴム球付きのプロワーで吹き飛ばすか、柔かい刷毛で軽く払う程度にすることをおすすめいたします。

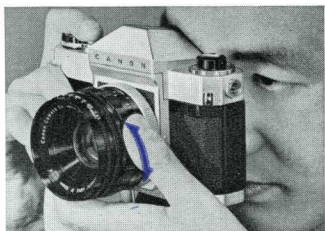
やむを得ないときは洗いさらした柔い清潔な布を棒に細く巻き、先端にわずか湿る程度のアルコール（エーテルを少量まぜればなお可）を付け、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽く拭きます。強く拭いたり、埃の付いているまま拭くと、かえってキズを付けますから注意が大切です。ミラーには特に手を触れないようにご注意ください。

カメラを海水に落したときは時を移さず清水で洗い、きれいに拭いたのち直ちに修理にお出してください。グズグズしていると腐触のため回復不能になります。

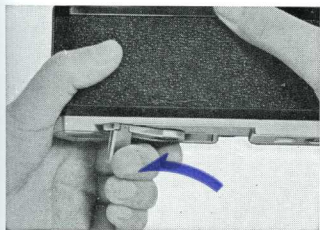
# 撮影の手順



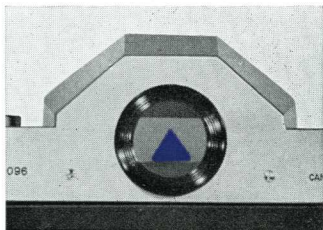
1 レンズキャップをはずす



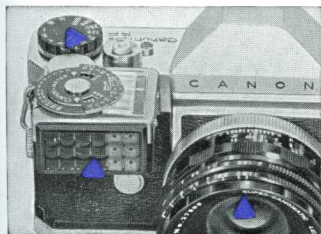
4 被写体にピントを合わせる



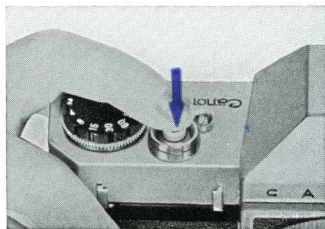
2 巻き上げをする



5 構図をきめる

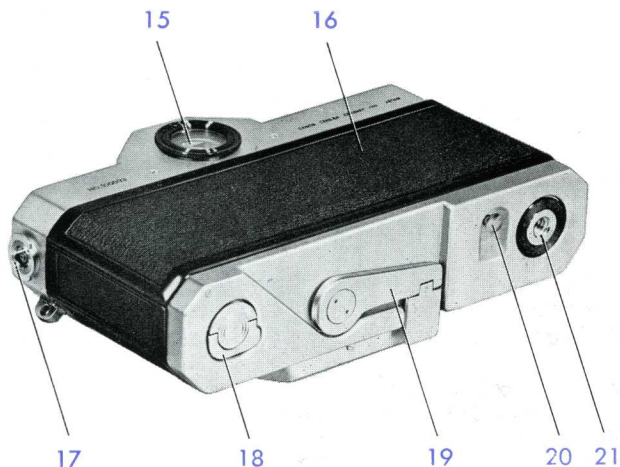


3 キヤノンメータによりシャッターと絞りをきめる



6 シャッターボタンを押す





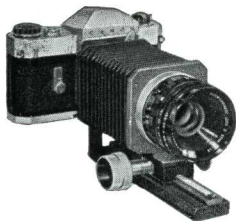
- |    |                         |    |                  |
|----|-------------------------|----|------------------|
| 15 | ファインダー接眼窓… 5頁           | 18 | 裏蓋開閉つまみ… 12, 17頁 |
| 16 | 裏蓋…………… 12, 17          | 19 | トリガーレバー… 2, 28   |
| 17 | フラッシュユニット<br>直結ソケット… 26 | 20 | 巻き戻しボタン… 16, 28  |
|    |                         | 21 | 三脚取り付けねじ孔        |



# ア ク セ サ リ ー

ペローズ R 皮ケース付 ¥ 9,000

近接撮影, 拡大撮影に欠くことのできないアクセサリーで, 更に距離計キヤノン用レンズを利用することもできます。



58mmねじ込みクローズアップレンズ

450 撮影距離 55~33cm ¥ 2,000

240 撮影距離 33~26cm ¥ 2,000

レンズの頭部にねじこんで簡単にクローズアップ撮影ができます。



フラッシュ ユニット カブラー

アクセサリーシューおよびドイツ式接点をもつ市販のフラッシュガンやスピードライトをキヤノンフレックスに取り付け使用できるアクセサリー。



カメラホルダー R-2 皮ケース付 ¥ 1,900

三脚に取り付けるさい, カメラを重心位置で安定に支えます。



58mm ねじ込みフィルター

各 プラスチックケース付

(R 35mm F2.5, R 50mm F1.8, R 100mm F2,

R 135mm F2.5, R 200mm F3.5用)

SY 44・2C (淡黄), SY 50・2C (黄), SO 56・2C (橙), MG 55・C (緑), SR 60・2C (赤)の5色およびSL 39・3C (UV), ほかにカラー コンバージョン フィルター, スカイライト フィルターがあります。

各色 ¥ 1,500・UV ¥ 1,600・カラーコンバージョン, スカイライト 各 ¥ 1,600



キヤノンカメラ株式会社

東京・大田区下丸子

電話 738-2111 (大代表)

